



フローレンス・ ナイチンゲール記章 授与式に参加して

2年に1度、顕著な功績のあった看護師に授与される世界最高の記章であるフローレンス・ナイチンゲール記章の受章者が、5月12日、赤十字国際委員会ナイチンゲール記章選考委員会（スイス・ジュネーブ）から発表されました。今回は世界で36名が受章。そのうち日本から公衆衛生分野における活動、看護教育分野における活動で功績が認められた惣万佳代子さん、山田里津さんの2名が受章しました。現在までの受賞者総数は1447名であり、日本人の受章者総数は107名となりました。8月5日（水）、東京プリンスホテルにおいて、授与式が行われ、このお2人が日本赤十字社名誉総裁である皇后陛下御手ずから記章が授与されました。この授与式に当校の学生5名と教員2名が参加しました。



授与式の後、午後から惣万佳代さんと山田里津さんの講演会を聞きました。そして感じたことは、お二人とも人道を大切にしてくれたということです。また、どんな壁に何度ぶつかろうとも、自分で考えた事を最後まで“実践”してこられた方々でした。特に心に響いたのは、山田さんの「人間理解」という言葉でした。人間を大切にする人になることが看護には必要なのだと痛感しました。今回、このような貴重な体験をさせていただき本当に嬉しく思います。私もお二人のように志の高い看護師をめざしていきたいと思います。
(2年・日笠祐子)



今回、ナイチンゲール記章授与式に出席するという貴重な体験をさせて頂くことができました。式場はとても厳かな雰囲気にもまれていて、私も少し緊張しながら授与式を拝見しました。受章者の一人である惣万さんは介護の分野で尽力された方です。高齢者や子ども、障がい者関係なく、誰もが自分の慣れ親しんだ地域で暮らせることを目指してこられた惣万さんの姿勢は、在宅看護論実習で社会的支援の大切さについて学び終えたばかりの私にとってとても勉強になりました。
(3年・山下恵菜)

授与式の会場に入った瞬間にその座席数が思いの外少い事に驚きました。しかし、多くの報道陣と警備の人たちが居られ、こんな一部の人しか参加できない式に自分が参加し、改めてナイチンゲール記章が大変なものであるという実感が湧いてきました。授与式が厳かに執り行われる中で、惣万さんは私達が式典で身につけると同じ赤十字の式服に身を包んでおられ、身近に感じると共に式服の伝統の重みを感じました。授与式後の講演では、惣万さん、山田さんそれぞれが考える看護の在り方について聞く事ができました。惣万さんは対象となる人の「生活」の一部となる看護。山田さんは看護師が科学的な目で観察された「専門性」を持った看護。これから入職する私達が忘れてはならない看護の在り方だと思いました。今回このような機会を与えていただけて本当によかったです。（3年生・矢野寛子）

受章者の惣万佳代子さん、山田里津さんの講演の中に、「何か看護師として力になれないか、と考えたことが始まり」「こうありたいという強い決意が、実現につながる」という言葉があり、深く感銘を受けました。これから看護師を目指す私にとって、この授与式は、志とモチベーションを高めるとても良い機会になりました。諸先輩方の看護の精神を受け継ぎ、幅広い人間理解の考え方を育てるよう、日々学び、努力していきたいと思います。（2年・小又友紀子）



《参考》

フローレンス・ナイチンゲール記章について

(日本赤十字社ホームページより)

フローレンス・ナイチンゲール記章は、第8回(1907年)と第9回(1912年)の両赤十字国際会議の決議に基づいて制定された「F. ナイチンゲール基金」によって創設され、F. ナイチンゲール女史の生誕100周年を記念して1920年に第1回の記章が授与されました。

目的：傷病者の看護の向上に献身し、人道博愛精神の昂揚に尽くした女史の偉大な功績を永遠に記念し、看護活動に顕著な功勞のある人を顕彰することにあります。

第34回の授与からは、男性も受章対象となり、受章資格として公衆衛生と看護教育の分野での貢献も追加されました。

受章資格：

- (1) 傷病者、(身体)障がい者または紛争や災害の犠牲者に対して、偉大な勇気をもって献身的な活躍をした者や、公衆衛生や看護教育の分野で顕著な活動あるいは創造的・先駆的貢献を果たした正規看護師や篤志看護補助者
- (2) 上記(1)に該当する者であって任務執行中に殉職した者

